

学びに向かう子どもの育成

～算数科における学びの土台を生かした、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業づくり～

美唄市立東小学校
学級数 17
(校長 矢原 雄平)

1 はじめに

本校は、今年度より、「学校力向上に関する総合実践事業」の中核校として、包括的な学校改善に向けた取組を推進している。指定事業の取組の大きな柱として、特に、「学習指導の充実」や「教員の資質・能力の向上」を視点とし、学びに向かう子どもの育成を目指す学校改善を進めている。

2 主題設定の理由

平成 31 年度全国学力・学習状況調査の児童質問紙において、本校では、「課題解決に向けて自分で考え自分から取り組んでいる」、「話し合いを通じて自分の考えを深めたり広げたりすることができている」、「授業で学んだことを他の学習に生かしている」の設問に肯定的に回答した児童の割合が全国比で 30 ポイント程度低く、学びに向かう意欲や協働的な学び等に課題が見られた。

また、NRT 検査では、過去 4 年間の経年変化で、全国平均に近付いてはいるものの、手立てを必要とする児童が 2～3 割程度見られ、依然として学力向上に課題が見られている。

こうしたことから、今年度の重点目標を「社会で生きる力を育む」とし、全ての子どもの基礎的な学習内容の定着を土台に、意欲的に学びに向かう児童の育成を図っていくことを目指して取組を進めた。

3 目指す児童像の設定

「学びに向かう子どもの育成」については、研修部が中心となって、目指す児童像をより具体的に教職員に示すとともに、児童による自己評価を通して、児童の変容を見取ることができるよう発達の段階に応じた 3 つの具体的目標を設定し、全教職員で共有化を図った。

	問いやめあてを持って学ぶ子	他者と協働し解決する子	自分の考えを伝え合う子
低学年	かだいにむかって授業に参加している。	授業で、友だちや先生と考えを出し合っている。	自分の意見を話している。友だちの話を聞いている。
中学年	授業の中で課題を解決しようと考えている。	友だちどうして、課題や問いについて考え合っている。	自分の考えを話している。友だちの話を自分の考えと比べて聞いている。
高学年	授業で課題をみつけたり、問いをもって授業に参加したりしている。	考えを出し合って、課題や問いを解決している。	自分の意見を、筋道を立てて話している。友だちの話を自分の考えに生かしなが聞いている。

【発達段階に応じた目指す児童像】

4 学びを支える土台づくり

主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業づくりを進める上で、土台となる 3 つの視点による取組を学校全体で計画的・継続的に行っている。

① 早期の段階からの学習ルールの確立

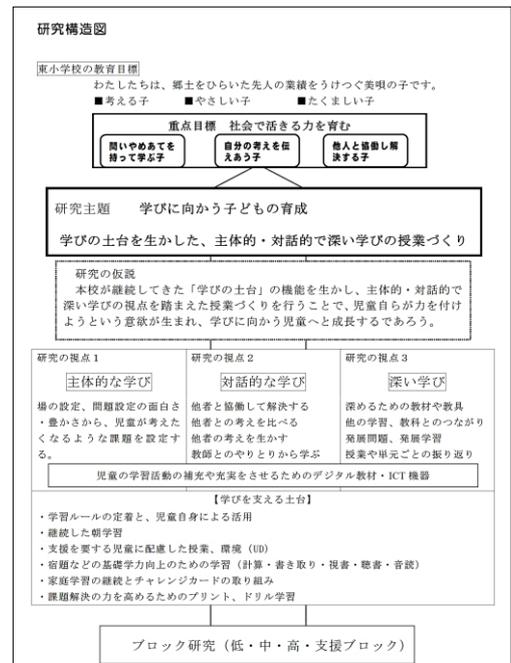
年度当初の 4 月に学習ルールを全校で確認し、毎月、学級ごとに Google フォームを活用して振り返りを行っている。教師による学習状況の把握とともに、子ども自らが学習に対する自己調整が図られるよう働きかけている。

② ほっかいどうチャレンジテストの活用

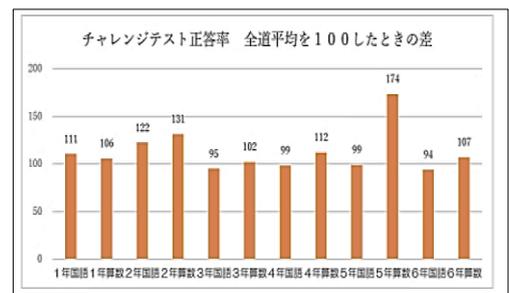
「ほっかいどうチャレンジテスト」の結果を研修部で分析し、校内研修の時間で成果と課題を全教員で共有するとともに、授業改善や個別指導など学年や学級ごとに必要な取組をそれぞれ具体的に示し、課題解決に向けた実践を積み重ねている。

③ 家庭学習の充実

個に応じた指導につなげるため、今年度から家庭学習強化週間における各学年の目標学習時間に対する達成率を提示している。



【学校教育目標と研究主題とのつながり】



【「ほっかいどうチャレンジテスト」の結果の共有】

5 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業づくり

①授業改善の視点の共有

本校では算数科の学習指導案の本時案に、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の視点を位置付け、具体的な児童の姿を明確化し、具体的な姿の実現に向けた手立てが効果的に組み合わせられて授業が構造化されていくことを目指している。また、主体的な学びにおける「課題」の工夫や、対話的な学びにおける展開の解決場面での子ども同士のやり取りの場面の設定、深い学びにおける、思考や態度が変容した時間を見取る場面の設定など、具体的な実践ポイントを全教員で共通理解を図りながら進めている。

児童の学習活動	教師の働きかけ
1. 本時の学習課題を知る。 ○班対班で、輪投げゲームをしよう。 ○実際に輪投げゲームをする。 ・ずるい。 ・距離ががらうから、公平ではない。	○輪投げゲームを体験することを通して、距離が不公平であることを感じさせ、公平にするにはどうしたら良いかという問いをもち出す。 主体的な学び
2. 本時の学習課題をつくる。 ○どのようにしたら、公平に輪投げゲームができるだろう。 ・みんなが同じ場所から投げれば良い。 ・班ごとに順番に投げればよい。 ・まともな数だけ用意したらいいと思う。	○ノートに、思いついた方法を書き、実物投影機を使って発表する。 ○子どもが思いついた方法を一つ一つ取りあげながら、興味し合うことを通してよい方法を考え合う。 対話的な学び
3. 様々な方法が出たら、条件を出す ①時間がかからないようにするにはどうだろうか。	○条件を示すことで、様々な方法から、一点から等距離の位置について気づかせていく。

【学習指導案に明記された授業改善の視点】

②授業研究と研究協議のもち方の工夫

研究協議では「Jamboard」を活用するなど、教師が率先してICT端末及びアプリ等を授業内で有効活用し、ICTの活用に関する能力を高め、子どもへの還元を図っている。また、①で示した「主体的・対話的で深い学び」の具体的な実践ポイントに示した内容に沿って授業の反省が行われ、蓄積された記録について、共有ファイルに保存するなど、全教員がいつでも閲覧できるよう工夫した。

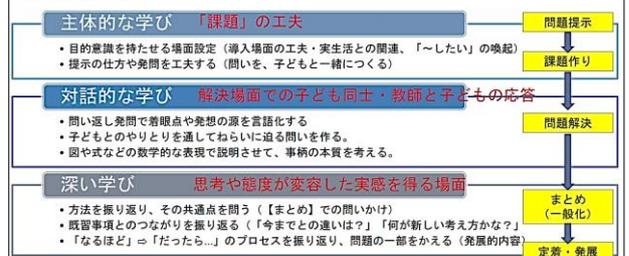
③単元を通して学びを深める振り返りの工夫

分かったことを子ども自身が実感するためには、単元を通してどのような学びがあったかを振り返ることが必要である。そのため本校では、単元の振り返りの場面で、授業ノートや単元テストを活用させるなどして、子どもがこれまでの学びを継続的に振り返ることができるようにした。

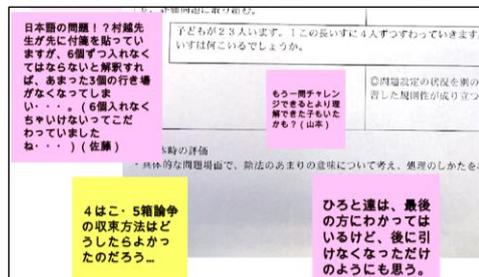
④1人1台端末を有効活用した授業改善

1人1台端末が整備され、授業の中で、どのように端末を活用すれば、子どもたちの学びをより豊かにすることができ、確かな学力の定着や学びに向かう力の育成を図れるか、研修部を中心に研修を進めている。特に、「Google Classroom」を用いたICT端末の活用や学級及び専科の授業ごとにClassroomを設定し、ペーパーレスによる双方向性を生かした授業改善等について研修を深めるとともに、低学年のICTスキルを考慮した操作性・即応性の高いアプリの活用などについても研修を進めている。

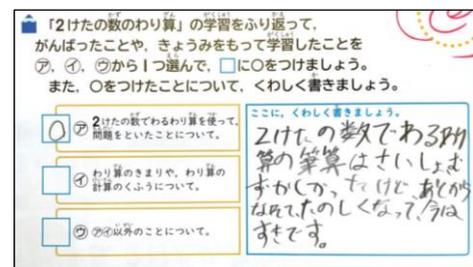
【主体的・対話的で深い学び】の具体的な実践ポイントと授業構造



【授業改善の具体的な実践ポイント】



【Jamboard を活用した研究協議】



【単元を通して振り返りのワークシート】



【児童がICT端末を活用する様子】

6 取組の成果と課題

- 全職員が目指すべき児童像を共有し、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業づくりを進めたことにより、児童の学ぶ意欲を向上させることができた。
- 学習課題が「児童（主体）のもの」となっているか、対話的な学びが、単に会話のみにとどまっていなかったかなど、常に、授業を振り返りながら検証し、日常の授業実践を積み上げていく必要がある。
- 本取組を単発的な授業改善にとどめることなく、学校全体が一体となって学び続けることのできる、日々の授業改善につなげていく取組とする必要がある。